

# 上映映画解説

1957, 9

国立近代美術館 フィルム・ライブラリー



No. 49

Das Kabinett von Dr. Caligari

## 「カリガリ博士」鑑賞会について

フィルム・ライブラリーの特別鑑賞会では、一般の映画愛好者、研究家のために、歴史的な価値のある芸術性豊かな古典映画をとり上げてきましたが、今回はその第二九回として、九月四日から二二日まで、毎週二回（日・水曜日の二時）ドイツ映画「カリガリ博士」を上映します。

今回は特に右に先立ち、九月三日松坂ホールにおける「ドイツ近代芸術の会」の一部として、徳川夢声の説明により、無声映写機を使用して公開します。

この映画は、第一次世界大戦後のドイツに生れた表現派映画の最初の作品です。「除夜の悲劇」最後の人「ベルリン」大都会交響楽」等数多くの作品の脚本を担当したカール・マイヤーが、ハンス・ヤノウィッツと共同して、原作・脚色に当り、「罪と罰」等のロベルト・ウイネが監督し、プロデューサーは有名なエリッヒ・ポマーですが、この映画で特に重要なのは、装置・衣裳・照明を担当した、<sup>グレン・グールド</sup>グレン・グールドに属した表現派画家、ヘルマン・ワルム、ワルター・レーリッヒ、ワルター・ライマンの三人であるといわれています。その仕事は非常に独創的で、後に「カリガリスム」と呼ばれている程です。この映画の関係者の中、脚本のマイヤー、装置のワルムとレーリッヒ、俳優のウェルナー・クラウス、コンラッド・ファイト、フリードリッヒ・フェーエルらは、その後のドイツ映画界に指導的な役割を果たした人々であり、「カリガリ博士」は、ドイツの有能な青年芸術家たちによって、第一次大戦後の映画界にあげられたのろしといえます。そして、先に当りライブラリーでとりあげた「朝から夜中まで」カイズー原作、カール・ハイント・マルティン監督と共に、表現派映画の代表作として、世界の映画史上特異な地位を占めています。

わが国では大正一〇年（一九二一）五月一四日、キネマ倶楽部で封切られ、特に若い芸術家、愛好者の間に強い刺戟を与えました。

## 「カリガリ博士」

無声六巻

独デクラ・ビオスコープ一九一九年度作品

スタッフ

原作・脚色……………カール・マイヤー

……………ハンス・ヤノウィッツ

監督……………ロベルト・ウイネ

美術……………ヘルマン・ワルム

……………ワルター・レーリッヒ

……………ワルター・ライマン

キャスト

カリガリ博士……………ウェルナー・クラウス

眠り男セザレ……………コンラッド・ファイト

フランシス……………フリッツ・フェーエル

リダ……………リル・タゴフアー

## The Cabinet of Dr. Caligari

(Das Kabinett von Dr. Caligari)

Dr. Caligari……………Werner Krauss

Cezare……………Conrad Veidt

Francis……………Fritz Fehér

Rida……………Lil Dagover

Story by Karl Mayer & Hans Janowitz,

Artistic Designs drawn by Hermann Warm,

Walter Reimann & Walter Röhrig,

Directed by Robert Wiene.

梗概▽精神病院の前庭で若い患者フランシスが医師と話してゐる。患者の空想が事実らしくも怪奇的に語り出される。……………

北独逸の或る町に祭りが行はれてゐる。多くの見物の中で一番多く見物を寄せてゐる珍らしいカリガリ博士と眠り男……………眠り男のセザレは博士の命令に由って徐々に目を覚まし人々の運命を余言する。

カリガリ博士が此の町に来てから怖ろしい殺人事件が頻々と起った。町の人々は此の奇怪な事件に色々と噂した。フランシスの友人マランも殺され、恋人リダも危害を受けた。犯人は？

フランシスはカリガリ博士を怪しと睨むで夜明けに博士の小屋へ行った。想像通り犯人はセザレであった。

博士はフランシスを見て逃げ出した。……………フランシスが追ふ。博士は精神病院に入った。意外……………院長がカリガリその人であった。院長は夢遊病者を自由に操る昔の人間の記録を読むで興味を覚え、それを真似たのであった。……………患者は此処で話を終へた。此の語に出て来る人物は総て病院の人々であった。若い患者の不思議な空想……………聴きとれてゐた医師は驚くばかりであった。

(以上は「シネマ・パレス週報」から引用)

## 映画「カリガリ博士」

村山知義

これは、ドイツの表現派を初めて映画に取り入れ、世界中で紹介した映画である。

表現派 (Expressionismus) というのは第一次世界大戦 (一九一四—一七年) の直後、ドイツに起った美術上の一つの流派であり、ついで詩や、演劇や、小説に取り入れられ、ついに「カリガリ博士」によって、映画芸術にも取り入れられたのだ。

大戦によってドイツは完全に敗北したので、今迄絶対のものと考えられていた帝制は崩壊して、カイズルは隠退を余儀なくされ、共和制となり、弾圧されていた社会主義が発展し、資本主義経済の基礎がゆるぎ、中産階級は没落し、貨幣価値は惨落した。その結果、精神生活の面でも、今迄善いもの、正しいものとされていたものがそのねうちを失い、何が善く、何が正しいかの規準が失われてしまった。そこでまず美術の上で、今迄、美しいとされてきたものを棄てて、醜いと思われていたものを再検討して、新しい美を見出そうという努力が始まった。また、今までの単に感覚的、或いはせいぜい感情的なものだったのにあきたらず、思想的、大きくいえば世界観を美術に描き出そうとした。こういう欲求の結果、今までのように、外界の事物をキャンパスの上そのまま再現しようとするのではなく、画家の内心のものを外界に移して描こうとするから、目で見た通りのものではなく、主観的な感覚、



感情、思考が加わり、デフォルメされたものの、或いは無対象の、色と形の組合せを描くことになった。

この試みはすぐに演劇の舞台装置に取り入れられ、それがこの「カリガリ博士」によって、映画にも取り入れられたのである。もっとも当時の映画は色彩なしだから、色彩の面白さは企てるべくもない。

人間の生活をストーリーにすれば、どうしても建築物がセットに必要になるが、これは現実においては、地上に垂直に立たねばならないのだが、それをデフォルメすれば、どうしても三角形が多用されなければならない。従ってこの映画のセットには斜めにかしく三角形が多用されている。

演劇にはいった表現派は舞台装置だけでなく、俳優のメイク・アップにも影響を及ぼし、顔や手をもカンバスとして、斜めや三角に塗りわけた。またコスチュームも同じように写真とは違いのものとなった。舞台には、可成り凝ったものも、その後現われたが、当時ドイツは大変に貧乏していたので、この映画も極力、金をかけずに作られており、建築も殆んどすべて、絵で片付けてある。

表現派は美術だけでなく、文学にも現われた。まず詩が、フレーズの短い、直截に単語だけを並べたような形式となった。戯曲も、日常的会話をはなれて、表現したいことを直截にブツける「叫ぶ戯曲」(シュライ・ドラマ)を生んだ。これは当然演技にも影響し、ギクシャクした、アブ・ノルマルな肢体の動きや表情

による演技を生んだ。この「カリガリ博士」もまたそういう演技を示している。(この映画が作られた三十数年前の映写機の廻転は現在よりもろかったので、現在の映写機にそのままかけると、一層ギクシャクした、ピンシャンした演技になるおそれがある。)

この映画に主演しているコンラッド・フアイトは当時のドイツの有する最高の舞台俳優で、苦味走ったいいマスクをしている。(この映画では、せつかくのいい顔も、表現派的メイク・アップのために、うかがうすべもない。)私は一九二一年にドイツで彼の登場するいくつかの舞台を見た。肺を患っていたということ、いかにも陰影の多い、知的な、彫りの深い顔で、また、よく響く、渋味のある声で、日本で強いて似た俳優を求めれば芥川比呂志君であろうが、彼よりもっとガッシリした、せいも高い、病身ながら逞しい二枚目で、ハムレットなどは絶品と称せられた。同僚のウェルナー・クラウスやエミール・ヤンニングスが、しばしば映画に出ているのに対して、恐らくは病身が原因だったと思うが、あまり映画に出ていないので、日本では大して知られていない。ずっとのちになって、「將軍暁に死す」という映画に主演していたが、これは二枚目としては大分、年をとってからのもので、全盛時代の舞台姿を知る者には少し淋しい気がする。

この映画を三十数年前、初めて見た時は、私たちが若い芸術家たちは、感激措く能わず、口を開けば「カリガリ博士」をはめたたえたものであった。

その後しばらくして現れたアベル・ガンスの「鉄路の白薔薇」やマルセル・レルビエの「生けるバスカル」やスタンバークの「救いを求むる人々」やのように、その後の映画のテクニクに大きな影響を与えることはできなかつたが、初めて自然物そのままをうつすという域から解放された、ということのよろうが、広々とした、無限の可能の前途がひらけた、という希望やからくる感激は、実に大きかった。その感激は既にたくさんのアブストラクトの美術を見慣れている今の人たちには思ひもよらないだろう。